

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 1170700163 | | |
| 法人名 | 株式会社メデカジャパン | | |
| 事業所名 | 岩槻ケアセンターそよ風 | | |
| 所在地 | 埼玉県さいたま市岩槻区飯塚1280-3 | | |
| 自己評価作成日 | 平成22年4月14日 | 評価結果市町村受理日 | 平成23年4月28日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター | | |
| 所在地 | 埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号 | | |
| 訪問調査日 | 平成22年4月29日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| <p>その人がその人らしく暮らせる為に安心、安全に配慮している。 常に笑いがたえないセンターにしていきたい。</p> |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| <p>・何事も「利用者第一」が職員間に浸透し、その結果、利用者が安心して過ごされている。どこにもなじみず他事業所では帰宅願望が強かった利用者も、職員の「利用者第一、利用者個々の尊重」の温かい取り組みで、笑顔のある穏やかな日々を過ごせるようになり、不穏な利用者もいない。 ・職員同士のチームワークが良好で、利用者、家族との意見交換も活発に行われていることで、相互理解の信頼関係が築かれている。その影響から「看取り」希望の利用者も多く、利用者に寄り添った日々が展開されている。</p> |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 人格と個性を尊重し、利用者一人一人に合わせた援助をする。 | 「認知症があってもその人らしく最期まで生活できるようにお手伝いしていく」という理念のもとに、利用者一人一人に合わせた支援が実践されている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 近所の方と気軽に挨拶を交わし、日常的な付き合いが出来る。 | 地域との交流を大事にしている中で、七夕やクリスマス会には、近隣の幼稚園児が訪問してくれたり、近所のボランティアの方が週3回も食事を作りに来てくれている。地域の行事には積極的に参加をすることで交流が図れるよう取り組んでいる。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域のボランティアの方やお年寄りに行事等に参加していただけるように声をかけ、一緒に楽しんでいただいている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 現在定期的に行われており、家族の方に意見をもらい、サービス向上に活かしている。 | 家族から、災害時の避難誘導やそよ風通信の配布場所についての意見をいただき、検討をしている。送付した議事録を見た家族が運営推進会議に積極的に参加するようになるなど、活発な意見交換や交流が図られている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 在宅介護支援センター・居宅介護支援センター開設し、併用している利点を生かし、多種多様なサービスを目指している。 | 市主催の研修会などに参加している折に、市の担当者には事業所をサロンの形で利用してほしいと提案している。また、事業所を知ってもらおうと、社会福祉協議会や地域包括支援センターを巻き込んだアピールをしていきたいと検討している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束をしないケアを実施している。 | 虐待防止責任者を定めて、身体拘束防止に関する勉強会を定期的実施するなど、職員全員に身体拘束防止への理解が深まるよう取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 常に利用者の身体、精神などを観察している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在行っていないが、研修の機会があれば、積極的に学んでいきたい。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 面談の時間をとり、書面で説明を行なっている為、十分理解して納得して頂いている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会にこられたときに、管理者・職員にきずいた点をお話し頂き、現意見箱を設置し、速やかに改善するよう話し合う。 | 利用者や家族の要望は、よく傾聴し、できるだけ汲み上げられるよう努めている。家族の意見をより一層反映しやすくするために、今後家族会を作る予定である。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 全体会議を行っており、毎日の申し送りで意見や提案をしている。 | 職員からの意見は言いやすい環境にあり、全体会議や申し送り時に伝えている。具体的には行事や食事の内容に関して職員から提案があり、具体化され改善されている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 日々のミーティングや申し送りで現状の把握を行い、役割分担をして、スキルアップにつなげるように努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 日々のことがすべて、学ぶことで、勉強会としては、充実している。 社内研修の機会もあり。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 自社内で行っている、会議や意見交換会などに参加して、情報の交換を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 時間を十分にとり、相談を聴いている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 面談の時間をとり、相談に対するアドバイスをやっている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | その方の、その時が必要かにより、他のサービス提供への対応もおこなっている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 生活暦や会話を通しその方に合わせた声かけや環境づくりに勤めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族様と利用者様が接する機会を作り、共に喜び共に生きる思い出を作っていただき、行事の出席など、ご家族様も積極的に取り組む。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 友人との手紙・はがきの支援を行い、食事会への参加などは送迎を行うなどをしている。 | 定期的に訪ねてくる友人や、以前から利用していた美容院、スーパーなどへ出かけている利用者もいる。また、そよ風通信を友人に送ることで、事業所での生活ぶりを伝え、つながりを継続するよう努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者の性格などを考え、座席をきめている。また、職員が利用者との間に入り交流できるように配慮し、利用者同士が関わりやすいよう勤めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス終了後もご家族から連絡があれば対応している。 「そよ風通信」などを送っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 常に観察をして、利用者と関わる。心と心の支援をする。また気持ちを伝えられない方は、ちょっとした変化からも考えられるように本人本位に考えられるように勤める。 | 利用者と向き合い、利用者の言葉の端々やちょっとしたしぐさから、思いや気持ちを察知するなど、見逃しのないよう努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所の際の面談でご家族より、生活歴やなじみの暮らし方を伺って全職員が把握できるように明記している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個人記録への記入や申し送りを通して、情報を共有することで総合的に把握するように努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご家族の意見等を取り入れて、本人の意向に沿えるようなアイデアを出している。 | 利用者及び家族の意向や主治医からの意見を参考に、全員参加のもとチームケアで、介護計画の作成を行なっている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個人記録への記入や申し送りを通して、情報を共有し、見直しをしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 通院・買い物・お見舞・友人との交流・受診のケアなど、限りはあるが事業所で出来る範囲での精一杯の支援はしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 舞踊のボランティアや、地域の方との交流をしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 初診時家族にも同行していただき、話し合いで方針をきめている。 | かかりつけ医を受診する際は、ご家族対応で行っているが、事業所からも利用者の情報を提供することで、かかりつけ医からも指示をいただくようにしている。利用者の体調に合わせ往診も適宜行われている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 協力医院の看護師が、利用者を理解してくれているので、助言をして頂いている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 協力医院が間に入って来ており、早期入院への協力をしていただいている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | その都度、ご家族・医師と連絡し合い対応し支援する。 | 医師、看護師、職員、家族等で連携を図り、これまで4名の看取りを行っている。「ここで終末期を迎えたい」という希望が多く、利用者、家族、職員の信頼関係が築かれている。職員全員で勉強会を開き、支援体制を徹底し、安心した終末期を迎えられる体制の構築を図っている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 適切な応急手当が出来る職員は限られているので講習会などに参加したり、勉強会により全ての職員が対応できる体制を作る。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練は夜間を重点において行なっている。近隣の方の力を借りる体制は相談中。 | 運営推進会議の中でも、災害対策を議題とし、避難場所や避難経路などの確認を行い、家族や利用者の不安解消を図っている。地域住民の協力を得ての避難訓練は、まだ行われていない。 | 今後は地域の方にも参加を呼びかけ、一緒に防災訓練を実施していくことで、地域との連携体制が構築され、事業所と住民の協力関係が深まって行くことに期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | その方に合った言葉かけ・対応を常に大切に心がけている。 | 利用者の尊厳を傷つけないように、さりげない対応で支援をされている。それぞれの利用者に向けた言葉かけや対応は、日頃から職員全員に周知徹底されている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 常に本人の思いや希望、今訴えたいことを読み取り、その方に合った分かりやすい言葉で対応している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ご自分のペースで希望を伺いながら、その人らしい過ごし方をさせていただいている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | その方の好みの服装やドレスナーなど持ち込み、お化粧をされている。近所の美容院、訪問カットなど本人の希望に合わせている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 職員が入居者と共に食事をしたり、見守りしながら、サポートしている。食器や片付けを手伝って下さる。 | 野菜を洗ったり、得意な料理を職員と一緒に作ることが利用者の楽しみとなっている。利用者にあった食事形態や好みを反映した食事が提供され笑いの耐えない食事風景となっている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養士による献立。さらに個人に合わせた調理方法での提供を行い摂取量のチェックを行っている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 自分の歯がある人は、毎食後のうがい、歯磨きを。義歯の方は夜間、洗浄消毒を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄パターンを把握し、状態に合わせた対応、プライドを傷つけないよう配慮している。 | 排泄チェック表を用いて、可能な限り自立した排泄ができるように取り組んでいる。さりげなく自然に行うことで、利用者の羞恥心に配慮した対応がされている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 日常の食事での食材やメニューの工夫と共に医師との連携を取り排便の管理をしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 曜日、時間帯を各利用者の希望、タイミングに合わせて対応。 バイタルチェックをし、安全にも配慮する。 | 毎日何時でも入浴できるようになっている。利用者一人一人の希望にあわせ、気持ちよく安全に入浴を楽しんでいただけるよう努めている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 季節・体調に合わせて、温度調節・衣類調節などを行い、安眠策をとっている。 季節にて湯たんぽの使用 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員は利用者の薬を把握をしており、その大切さも理解している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 生活歴や現状の中から、無理なく出来ること、自発的にされていることを見つけ、積極的に行っていただいている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 出来る限り行きたいという希望には対応している。 | 散歩は日常的に行われており、買物や映画鑑賞などにも出かけている。4年前から毎年ディズニーシーへ行っており、利用者、家族、職員の楽しみの一つになっている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 自ら管理されている方もいらっしゃいますが、自己管理できない方はこちらでお預かりして対応している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | その都度、電話使用や手紙の対応をしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 一般家庭用の家具や物品を使用している。 | 獅子舞のご意見箱が置いてあったり、職員と利用者が一緒になって作った神社やよろいが玄関に飾られている。また、季節を感じさせる作品などの飾り付けを採り入れるなど居心地良く過ごせるよう工夫がされている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 廊下に設置してある椅子やリビングで自由に過ごされている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 使い慣れた家具や、好みのものを持ち込まれている。仏壇は持ち込みもあり。 | 利用者それぞれがなじみの物を持ち込み、個性のある居室作りをされている。また、衣装ケースを職員と一緒に買いに行くなど居心地よく過ごしていただけるよう支援がされている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | リビング・廊下・トイレ・浴室に手すりが設置されている。 プラス、職員の気づき | | |

(別紙4(2))

事業所名 岩槻ケアセンターそよ風

目標達成計画

作成日: 平成 23年 4月 12日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|-------------------------|-------------------------|--------------------------------|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 35 | 火災・災害時の地域との協力体制ができていない。 | 地域の方にも参加していただいての避難訓練の実施 | 近隣での避難場所の確保。 地元消防団の方との関係を構築 | 6ヶ月 |
| 2 | | | | | ヶ月 |
| 3 | | | | | ヶ月 |
| 4 | | | | | ヶ月 |
| 5 | | | | | ヶ月 |

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。